

令和6年度外部評価の概要（広域普及指導センター）

1 気象変動に強い高品質で安定収量の確保に向けた主穀作の生産推進

項目	外部評価委員コメント	対応措置方向
<p>1 高品質で選ばれる富山米の生産推進</p> <p>2 水田フル活用等による大麦・大豆等の安定生産</p> <p>3 人と環境にやさしい農業の推進</p>	<p>[必要性・貢献可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温暖化などに伴う生育状況に応じた富山ブランドの品質・収量の安定化、高品質の「富富富の安定生産と普及」という課題は、コメ需要の低迷及びコメ価格の不安定など農家の収益構造の厳しさを増しているなかで、必要かつ貢献可能性は高いと評価できる。 ・近年の高温傾向は恒常的なものとなる可能性が大きい。高温対策のきめ細かい指導により、富山米のブランドが守られたことは大きい。 ・近年異常気象が続いており、耐暑性のある富富富の生産推進を進められていることは評価できる。 ・コシヒカリには絶対的なファンがいる。新潟県のように、高温耐性のコシヒカリの開発が急務。 ・まだコシヒカリ中心の作付けであるため、富富富のメリットをさらに周知するべきであると考え。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本県では高温耐性品種として「コシヒカリ」を基に「富富富」を育成しており、温暖化の気象条件下においても90%以上の1等米比率を確保していることから、今後も「てんたかく」「てんこもり」と合わせて高温耐性品種の作付推進を図ってまいりたい。 ・今後も温暖化の進行や産地間競争が激化する中で、気象変動に打ち勝つ高品質で安定した収量の確保は最重要課題と考えており、引き続き「普及指導計画」に位置付けながら、関係機関と連携して取り組んでまいりたい。
	<p>[取組み内容の妥当性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点指導対象、活動内容ともに、取組み内容として妥当と考えられる。 ・富富富の栽培拡大に腐心されていることには評価する。今のところ県の奨励品種であるてんたかく・富富富・てんこもりの品種推進は富山のブランド米を守る基本だ。 ・おおむね妥当であると考え。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・富富富に対して栽培が難しいという先入観が蔓延しているのも事実で、栽培技術を分かりやすく広めることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「県米作改良対策本部」を中心に行政・研究・普及・JA等の関係機関と連携し、高温耐性品種の作付推進、生育状況の把握や技術対策の構築、重点技術対策の実施、普及等、引き続き取り組んでまいりたい。特に、「富富富」については、収量の確保が課題となっていることから、収量確保に向けた分かりやすい技術情報の作成や研修会等により普及に努めてまいりたい。
	<p>[進捗状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中長期的な課題であることを考慮すると計画通り順調に進んでいると考えられる。 ・富富富の栽培面積も増加傾向にあり、1等米の比率も90%以上確保している。またコシヒカリの1等米比率も格段に向上、指導体制強化の結果だ。 ・おおむね適切であると考ええる。 ・環境負荷軽減肥料の実用化や省力化・軽労化対策の情報など、結果については速やか・迅速に公表してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化傾向の中、次年度以降も気象変動に強い富山米の生産に向けて重点技術対策を推進し、令和7年産米も1等米比率90%以上を目標に取り組んでいくこととしている。 ・環境負荷軽減肥料については、農業研究所と連携し、早期の技術開発につながるよう取り組むとともに、省力化・軽労化技術は実証確認後、速やかに普及につなげられるよう取り組んでまいりたい。
	<p>[今後の計画の妥当性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの成果を踏まえた持続性のある計画であると考えられる。 ・本年度の実績を踏まえ、次年度に向け普及・推進をしていただきたい。 ・おおむね適切であると考ええる。 ・高温対策に尽きる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・米をはじめ主穀作は本県の農業生産の太宗を占めていることから、収量・品質の確保による農家の経営安定に向けて関係機関と連携して取り組んでまいりたい。 ・令和6年産米については、1等米比率は大幅に改善したものの、高温による収量の低下やカメムシによる斑点米が問題になったことから、改善に向けて取り組んでまいりたい。

	<p>[総合評価]</p> <ul style="list-style-type: none">• 当該センターの課題への取組みは評価されるといえよう。しかしながら、富山ブランドである富富富については、気候変動などの生育状況の変化に強い収量確保と耕作割合の拡大とともに、他の県のブランドとの品質と味の違いをよりアピールできるような消費者アンケート調査など販売戦略にもより力を入れるべきだと思われる。そのためには当センターと関連部署とのコラボレーション（協力体制構築）も必要かと思われる。• 富山県の開発した富富富の普及はもちろんだが、コシヒカリにも根強い人気がある。前欄にも記したが高温に強いコシヒカリの開発も富山米ブランドの維持には必要不可欠な課題だ。• 近年の異常気象対策として、富富富の作付け増加の取組みをすることが必要であると考えます。それが結果的に富山県の特徴、強みにもつながっていくと思われる。	<ul style="list-style-type: none">• 「富富富」の生産振興は、作付面積の拡大につながるよう、引き続き「県米作改良対策本部」を中心に安定収量の確保に向けて取り組んでまいりたい。また、販売促進については、他課や全農とやま等の関係機関とともに推進しているが、実需者からの強い要望もあることから、さらに連携を密にして県内外の消費者に選んで頂けるように取り組んでまいりたい。• 高温耐性を目的とした新たな品種開発については、農業研究所で取り組んでおり、有望な品種が育成された段階で検討してまいりたい。
--	---	---

2 ICTを活用した指導体制強化等による「富山の野菜新時代」の創造

項目	外部評価委員コメント	対応措置方向
<p>1 ICTの活用等による指導体制の強化とリーディング経営体の育成</p> <p>2 若手野菜専作経営体等の支援体制の強化と高収益モデル経営体の育成</p>	<p>[必要性・貢献可能性]</p> <ul style="list-style-type: none"> • コメ需要の低迷及びコメ価格の不安定など農家の収益構造が厳しさを増しているなかで、当該センターによる収益性の高い園芸担い手育成とリーディング経営体の育成は必要不可欠であり、しかも ICT の活用による指導体制の強化は貢献可能性が高いと考えられる。 • 基盤整備を終えると約 40%の面積に水稲以外の作付けが必要。圃場の大規模化に伴う野菜圃場の ICT は不可欠。 • 担い手不足や高齢化などが進む中、省力化、効率化を目指すために ICT の活用は必須であり、それを進めている点は評価できる。 • 導入コストをいかに抑えるかが課題。 <p>• ICT という言葉がふわっとしていてわかりづらく、農家ひとりひとりが自分事としてとらえにくい気がする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ICT 技術の確立と普及による生産性の維持向上は、水田率の高い本県の園芸生産にとっては、重要な課題であると考えている。 • まずは、生産者が導入効果を実感できる ICT 技術（直進アシストトラクタやドローンなど）によって作業の効率化や人手不足の解消などを図ってまいりたい。 • また、ICT 技術の導入に当たっては、メーカー等とも連携協力し、技術実証ほを設置する等して、費用対効果も見極めるとともに機械導入と併せ、栽培規模（スマート農機の利用面積）の拡大による導入負担の軽減を進めてまいりたい。 • ICT という言葉については、ICT 技術の普及とともにわかりやすい周知に努めたい。

	<p>[取組み内容の妥当性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点指導対象、活動内容ともに、取組み内容として妥当と考えられる。 ・特に野菜は人手を必要とするので農作業の省力化・生産性の向上などが求められる。これが実現すれば富山の野菜出荷量に貢献できるのではないか。 ・おおむね妥当であると考ええる。 ・高収益モデルの推進は重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各農林振興センターなど関係機関とも連携し、モデル経営体ごとの栽培品目や労力に応じた周年的な作業体系を提案するなど伴走支援による園芸の高収益モデル経営体の育成に努めていきたい。 ・モデル経営体育成に係る優良な取り組みについては、関係者間で共有化し、今後の更なる園芸拡大につなげてまいりたい。
	<p>[進捗状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中長期的な課題であることを考慮すると計画通り順調に進んでいると考えられる。 ・まだ試行段階のようで、実績を基に前進を期待したい。 ・おおむね適切であると考ええる。 ・短期間では成果が目になかなか見えないので長期的な視点が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短期間で成果を示すことは難しい課題ではあるが、毎年得られた知見等を整理し、長期的な課題解決に活かせるよう取り組んでまいりたい。
	<p>[今後の計画の妥当性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの成果を踏まえた持続性のある計画であると考えられる。 ・周年的に所得を確保できる高収益経営体の育成に注目している。 ・おおむね適切であると考ええる。 ・ICTに対する知識などが求められるので、対応人員の育成が急務。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT技術については、多様な技術があることや、その内容も日進月歩していることから情報収集に努めるとともに、継続的に指導者育成や知識の向上を図ってまいりたい。

	<p>[総合評価]</p> <ul style="list-style-type: none">・当該センターによるお米中心の農家の収益性の確保のための①若手野菜専門経営体等の支援体制の強化、そして②ICT 活用による指導体制の強化による高収益モデル経営体の育成という試みは、持続可能な農業経営をサポート・調整を行うという側面からも評価されると考えられる。・酷暑対策・ICT の普及について、一朝一夕でなせることではない。県行政・農業団体組織との綿密な連携で種から芽が出て、初めて成果が出るのであって地道にかつ迅速な対応をお願いしたい。・ICT とは、自動運転トラクターやドローン、環境管理型ハウスなど、大規模な設備投資がいるものというイメージがあるが、栽培や飼育のデータを分析し活用することもICT と言えるということを知り、考えが変わりました。未来カレッジなどの圃場で、ICT 設備の見学などができると面白いと考える。	<ul style="list-style-type: none">・米生産に特化した本県農業においては、園芸生産を取り入れた複合経営の推進による収益性の確保は喫緊かつ継続的な課題であると考えている。・一方、人口減少や異常気象、資材高騰など農業生産を取り巻く情勢の急激な変化にも機敏に対応することが重要であると考えており、各関係機関とも連携協力体制を強化し、本県農業が持続的に発展するよう取り組んでまいりたい。
--	---	--